

寄り添う

守る

減りゆくホタルの光を守ろうと、保全活動に取り組む人々。その思いとは――

二区町地域資源保全隊

地区内のホタルが多く飛ぶ場所を「ホタルの里」という活動の拠点にし、周辺の草刈りや水路の清掃など、生育環境の保護に取り組む。



隊長 小林 憲治 氏

「30年前、田んぼがあの光でいっぱいだった」。当時を振り返りながらホタル川を眺める小林さん。子どもたちにあの頃の光景を見せてあげたいと、保全活動に対する思いを語る。

「農業の散布が始まったからだと思う。年々ホタルは減っていった」。小林さんが長年眺めてきた人とホタルの共存バランスも、年々崩れていくばかりだった。

平成17年に那須疏水の水路をホタル川として造成し、保全活動を開始。今では毎年、ホタルが飛んだ数を記録し、活動の効果を見守る。観察会として披露し、多いときは70人ほどが参加することも。「なるべく人の手を加えず自



シュレーゲルアオガエル 準絶滅危惧(県レッドリスト)

然のままホタルを増やしていく」それが小林さんの考え。子どもたちと行う生き物調査では、シュレーゲルアオガエルなどの希少種も確認され、参加者の驚きや喜びにつながっていると話す。「徐々に大人になるにつれてホタルの存在が頭の片隅から消えてしまう。忙しい毎日こそ、あの幻想的な光に意識を向けてみてほしい」と話してくれた。

30年前に見た光景をいつか今の子どもたちにも――

地域にホタルが舞うこと みんなの気づきや誇りにつながれば

「ホタルでいっぱいになすっか」そんな冗談半分のことから発足した会。代表を務める永井さんの発案でスタートした活動も今年で9年目を迎える。きっかけは組内の会議中、休憩で家の外に出たときにホタルの光が舞っているのを見たこと。減少傾向にあったホタルの数も、ここ4年ぐらいは目に見えて増加が実感できるほどだと語る。

毎年6月に開催する観察会は、子どもから高齢者まで60人以上が参加する。

「この地域はゲンジボタルがたくさん舞う。しかし、ホタルの生数であつたり、近所で観察できることを知らない人が意外に多い。そういう人のためにも観察会をやる意義は



カワニナは同じ水系から取集

大きい」と、昨年度の参加者名簿を眺める。永井さんが懸念するのは生き物調査をした際に、数や種が年々減っていること。「堰を造り、水の流れをせき止めることで生態系に影響が及んでいるのか」今後の活動で原因究明への意欲を見せる。

「後継者の問題などもあるが、この活動を何かの形で続けていきたい」と話していた。



代表 永井 憲一 氏

越堀自然を守る会

地区内に生ずる野生のカワニナを取集し、観察会を行う水路に放流。毎年2箇所を観察会を実施。水路の保全活動なども行う。

掌の中で2つの光が出会った。

この光は、豊かな自然と人々の思いによって灯る。それはこの先もずっと変わらない。

どうか来年もたくさん舞ってほしい――
これからもこの光をずっとずっと灯し続けていきたい。

ホタルの光をゆっくり観察しよう

～ホタル観察会を開催します～

専門家がホタルの生態や観察のポイントを解説。ホタルの一生について学んだ後、観察に出かけます。

≪鍋掛地区≫

▶とき 6月24日(金)
午後7時～

▶集合場所 とうら公民館

≪二区町地区≫

▶とき 6月30日(休)
午後7時～

▶集合場所 二区町公民館

▶対象 小学生以上の市民

※小学生は保護者の同伴が必要。

▶定員 各地区20人 ▶費用 無料

▶申込開始日 6月13日(月)～

▶申し込み・問い合わせ

環境管理課 ☎ 0287(62)7193

観察マナー

- ・ホタルは持ち帰ってはいけません。自然のまま観察しましょう
- ・ホタルは光に敏感で、強い光を当てると発光をやめてしまいます。車のライト、懐中電灯、カメラのフラッシュなどが当たらないように注意しましょう
- ・近隣に住宅があります。路上駐車する、大声を出す、ごみのポイ捨てなど、迷惑になる行為はやめましょう